

大変喜んで、途中からカッコー、カッコー、カッコーとついでに叫びました。それももう一生懸命、体を曲げていつまでも叫ぶのです。ゴーシュはとうとう手が痛くなったので「こら、いい加減にしないか。」と言いながらやめました。するとかっこうは残念そうに目をつり上げて、まだしばらく鳴いていましたがやっと「かっこうかくん、かっかっかっか」と言ってやめました。ゴーシュがすっかり怒ってしまって、「こら、かっこう鳥、もう用が済んだら、さっさと帰れ」と言いました。「どうか、もういっぺんひいてください。あなたのはいいようだけれども、何だか少し違うんです。」「何だと、偉そうに。オレがきさまに教わってるんじゃないんだぞ。早く帰ってくれ。」「どうか、たったもう一度お願いします。どうか。」かっこうは頭を何べんもこんこん下げました。「では、これっきりだ

よ。」ゴーシュは弓を構えました。かっこうは「くう」と大きく息をして「では、なるべく長い曲をお願いいたします。」と言って、また一つお辞儀をしました。「いやになっちゃうなあ。」ゴーシュは苦笑いしながら、ひきはじめました。するとかっこうはまた本気になって「カッコー、カッコー、カッコー」と体を曲げて、実に一生懸命叫びました。そ